



大石田町長
村岡 藤弥

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。
また、日頃より町政運営に對しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

防災・減災の取り組みを進め
安心・安全なまちを目指します

昨年を振り返ると、全国的に自然災害の多い年でした。2月には、「福島県沖地震」が発生し、宮城県と福島県で最大震度6強、負傷者185人（うち重傷者12人）の被害が出ました。7月には、「令和3年7月集中豪雨」により、静岡県や神奈川県を中心に大雨が降り、神奈川県箱根町で72時間雨量が800ミリを超え、静岡県熱海市では大規模な土石流災害が発生し、死者22人、行方不明者5人、被害棟数131棟という非常に大きな被害をもたらしました。8月には、「令和3年8

月集中豪雨」により、九州、北陸、中国地方をはじめ各地で大雨が続き、佐賀県の嬉野市で72時間雨量が900ミリを超え、長崎県の雲仙市、長崎市、佐賀県の鳥栖市で72時間雨量が800ミリを超え、67河川で氾濫し、死者13人、負傷者16人（うち重傷者2人）、住家の全壊43棟・半壊1、315棟・一部破損295棟、床上浸水1、023棟・床下浸水5、527棟等多大な被害をもたらしました。

こうした災害は、決して他人事ではありません。当町でも、「令和2年7月豪雨」において、最上川の支流上流部の大雨により、大石田観測所での水位が観測史上最高となる18メートル59センチを記録しました。多くの町民の皆さまに早めの避難行動をとっていただいたことから、幸いにも人的な被害はありませんでしたが、一方で、家屋や田畑、道路等への被害は甚大で、住宅被害は床上・床下浸水95棟、農地の被害では収穫期にあったスイカや出穂間

近の水稲、種を播いたばかりのそばなどが被災しました。また、上水道の水源場が冠水したことから、町内のほとんどの地域で4日間にわたり断水が発生しました。

町では、迫りくる自然災害への対応力を高めるべく、災害時に災害・防炎情報を発信するツールとして、新たに「町公式LINE」を開設し、町外に働きに出ている方にも情報をお届けできる仕組みを構築しました。災害が発生するおそれがある場合には、町の防災放送や緊急通報メール等の従来の情報伝達手段に加えて「町公式LINE」からも注意喚起の情報や避難に関する情報等を配信します。

県内でも豪雪地帯である当町において、冬の快適な暮らしには雪対策が不可欠です。町では1月4日（火）に豪雪対策連絡本部を設置しました。

今後も、降雪状況を把握し、必要に応じて豪雪対策本部の設置や流雪溝通水時間の延長など、関係機関と緊密に連携を図り迅速に対応して参ります。

雪問題は行政の力だけでは解決できません。引き続き行政と住民の総力を結集して雪対策に取り組んで参る所存ですので、町民の皆さまのご理解ご協力をお願いします。

地域おこし協力隊制度を活用した
まちおこしの取り組みについて

昨年は、新たに末石靖知さん、久龍花鈴さん、土田徹奈さん、大橋武司さんの4人が地域おこし協力隊として着任し、一昨昨年4月に着任した大野達也さん・あかねさんを合わせると6人体制となりました。6人の協力隊の皆さんには、駅前賑わい拠点施設「KONOKURA」の運営や、インバウンド客の誘致、AIR（アーティストインレジデンス）を活用した文化、芸術の町としての発信力強化など、それぞれの前職や得意分野などを存分に活かした活動を強力に進めていただいております。引き続き6人には特色ある取り組みで町の活性化に向けて活動していただく予定です。



▲大石田 AIR 成果発表ダンス公演 [レテ]

町民の皆さまのご指導、ご協力よろしくお願いたします。



▲「末ちゃんおーちゃん外国語講座」では、毎月広報紙に掲載する「英語・中国語一言講座」の実践編として、末石隊員が読み方とイントネーションを解説しています。にじっこひろばの「おーちゃん」も友情出演し、子どもから大人まで勉強できる楽しい動画づくりを行っています。



◀「末ちゃんおーちゃん外国語講座」へのアクセスはこちらから！

「町民目線のまちづくり」を
政治信条として

町は少子高齢化対策や人口減少対策、ワクチン接種などの新型コロナウイルス感染症対策、自然災害への対策など、様々な課題に直面しております。しかしながら、「町民目線のまちづくり」を政治信条として、「心豊かに幸せを感じるまちづくり」を町民の皆さまと一緒に進めていく所存であり、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が皆さまにとりましてすばらしい年となりますようご祈念申し上げます。

令和4年1月